

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。著しい隔離分布種で、日本では本地域だけに生育する。分布の中心が名古屋市内やその近郊の丘陵地で開発圧力が極めて強いため、総点は15であるがCRと評価する。

【形態】

落葉性の小高木。よく分枝し、高さ8~10mになる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭~尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ4~9cm、幅3~6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は4月、花は白色で直径約2.5cm、花弁は5枚、花柱は2~3個である。果実はほぼ球形、直径約1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（日比野修 5492）、日進長久手（半田多美子 2534）、東海知多（芹沢 74321）、犬山（芹沢 69242）、小牧（日比野修 5092）、春日井（山田果与乃 664）、名古屋北部（鳥居 ちゑ子 253）、名古屋南東部（花岡 昭 126）。現存個体数の相当部分は、名古屋市内にある。西尾市からの報告もある（大原, 1971）が、標本等は未確認である。

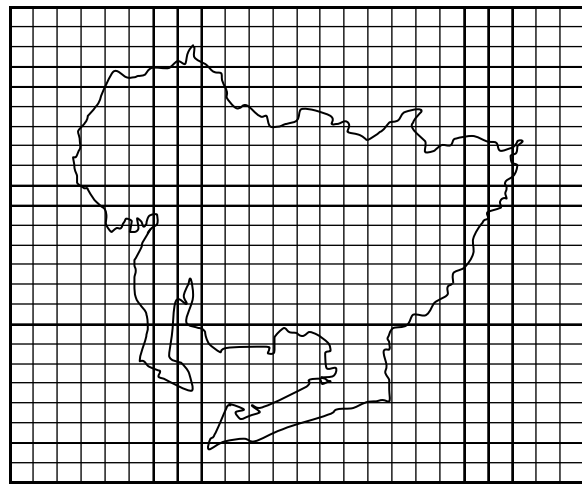
【国内の分布】

本州（愛知県、三重県）に分布する。三重県四日市市の自生地は、国指定の天然記念物とされている。長野県からの報告は誤りである（池谷, 2003）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

最近でもいくつかの自生地は、宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。名古屋南東部では、以前は多かったが、現在はわずかに残るのみである。その一方で、最大の自生地であった守山区の蛭池では、公園化により自然環境が破壊され、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。

【保全上の留意点】

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でもナガボナツハゼと共に最も危機的で、体系的な保護対策が必要である。

【特記事項】

彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 2 及びレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、瀬戸尾張旭、小牧などに稀に生育している。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.71. 名古屋営林局, 名古屋.
池谷祐幸. 2003. マメナシは長野県には分布しない. 植物研究雑誌 78: 177-178.

【関連文献】

保木本 p.46、平木本 p.227、SOS 旧版 p.58 + 図版 15、環境庁 p.122、SOS 新版 p.102,104.